

加賀の獅子舞は、天正11年(1583)前田利家公が金沢城入府の際、民衆によって歓迎の獅子舞が演ぜられて以来、代々保護されてきました。その後、藩政末期の世情を反映し、芸能である獅子舞は、武術鍛錬のカモフラージュに用いられていたと言われています。そして一説によれば、幕府の目を憚り、武芸修練の場として、山狹の聖地「剣」(現在の白山市鶴来地区(旧鶴来町))が選ばれたとあります。現在、白山市には日本一大きい獅子頭があるとともに、江戸時代に名を馳せた工匠らの作品が残されています。

獅子ワールド館は、獅子頭そのもののルーツをたどり、民俗文化の中で生きてきた獅子をテーマに展開、発展させたものです。

巍魁獅子(雄):鶴来



黄金獅子(雌):鶴来



めおと 日本一の夫婦獅子



北青獅子・鳳山獅子:韓国



ランダ・パロン:インドネシア



女神・シンハ・ネパール



醒獅子:台湾



北派獅子・南派獅子:中国



黒獅子:鶴来



赤獅子:鶴来



遠野青笛鹿踊り:岩手



麒麟獅子:鳥取



八代妙見獅子:熊本



名護大獅子:沖縄



八尾の獅子:富山



飛驒獅子:岐阜



熊獅子:青森



金獅子:高村光雲作

(講談社・靈獣伝説より)